

職員の候各位益々清静事申慶び候

諸君の重責 略報の付合なりしため承りしを

に打すき失禮多承り行ふは誠に詫言の上候

病は一週一週早春を待てる程の变化なく

元氣は何れも肺の微欠は依然と乾かす疾

多量 起居相叶はず 俸量減少 樂觀 汗は

くおれ一途申の 惟めにより 昔昔の地を

術と云はれ申候

秋オフレシは極之早候 ちかりのに 下在部 録一

寸程や肺の伸縮動かし可なり 神経を

と講せられ申候 素人の私には 奥行ある 視物

智能あり遺憾なし 而して手術を 受け九

好果と稱ふ 尤も 75% 万と 手術の 表に

六月の 経も 既して 良好に 候 先例に 合し

尤も 又々 閉口 候 今月 にも 同様 手術

晴れ ぽつぽつ 復洗 候 専ら 他意 なく

一平 居候 万に せし 申 候 候 候

昨年 本り 候 不景気 財政 益々 困難 候

世に皆様達の深恩を仰ぎ奉りて
家供拂へず来はまじしと云ふ窮境は業越し申人
尤もく事感謝あり

極度の苦境に陥りたる時、天恵にあり、如世の或節に
之を棄て業を陳述を聴取せられ、前月より六月（小生
の健康恢復するまで、ペンシシ（因筆）と一二月中、
妻に下附せられると云ふ事、其百前述べ置きたる
事死より、茲に條件を附せられ、書は「一家解散
せしむるを著す護し子共を養育せよ」と云ふ温言は
る尤もたい命令に依りて、

此今の更なる存の事、其月又は百二十兩とある事不足の事
程は不幸にも例のうらなひ、益に神飢飢し得るは尤も
本生百之又中計にあり、

先は月々の申見舞金に中計書近情を通報申上
其致具
病臥中

昭和四年七月十日

芳名 ABC 頃

妻に宛てて

地主 延之助 殿

